

## 「ストレス」と「癒し」の研究会 ～第3回講演会の内容～

日時:平成 22 年 11 月 17 日(水) 17:30～19:00

場所:研究棟3F 大学院セミナー室

演題: 『ストレスゲノミクス研究から見えてきたもの、まだ見えないもの』

演者: 六反一仁 先生

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

プロテオミクス医科学部門生体制御医学講座 ストレス制御医学分野 教授

### 講演要旨:

WHO は今年の 9 月 10 日の世界自殺予防デーに、世界で毎日約 3000 人、平均で 30 秒に 1 人が自殺していると報告した。さらに、日本をはじめとする先進国での上昇率が高いと警告した。厚労省も、日本国内の自殺とうつ病による経済損失は年間 2 兆 7 千億円にのぼると試算した。ストレスを客観的に評価し、ストレスに対する脆弱性を感知するマーカー、病的なストレス反応を捉えるマーカーが必要である。このためには、ストレス脆弱性に結びつく遺伝子素因と脆弱性を引き出す環境要因を明らかにするための環境と遺伝子の相互作用と相関関係の研究が必要である。視床下部-下垂体-副腎系、神経細胞の増殖と可塑性、及び炎症の経路に関連する遺伝子が主な標的と考えられる。遺伝子型とエピジェネティクに加え、non-coding functional RNA や選択的スプライシングも重要と考えられる。後者の 2 つは、従来の量的 RNA マーカーでなく質的な RNA マーカーとしてより明確なストレスマーカーになる可能性がある。こうした現状を踏まえて、末梢血遺伝子発現解析から見いだしたうつ病、慢性疲労症候群、自閉症発現パターンの意味、「炎症とうつ病」を説明するサイトカインプロファイルの有用性、心理的ストレス特異的な microRNA や選択的スプライシングバリエーションなどの新たな質的 RNA マーカーについて紹介したい。

### 演者のプロフィール:

六反先生は、昭和 54 年 3 月京都府立医科大学医学部を卒業され、沖縄県立中部病院研修医、国立循環器病センターレジデントを経て、昭和 63 年、京都府立医科大学大学院医学研究科(公衆衛生学)を修了し学位を取得。昭和 62 年 12 月～デュッセルドルフ大学生物化学第一研究所リサーチアソシエイト、昭和 63 年 7 月～米国ペンシルバニア大学小児科インストラクターの後、平成 2 年 2 月に京都府立医科大学助手、平成 3 年 10 月には同講師、平成 4 年 3 月には徳島大学医学部助教授となられ、平成 15 年 10 月に現職に着任されました。ご研究分野は、「ストレスゲノミクス」「環境と遺伝子」「ストレスを評価するバイオ・メディカル技術の開発」で、バイオリジカルなストレス研究の第一人者として活躍されています。

#### <主な研究事業>

平成 14～16 年度 科学技術振興調整費「こころを映し出す DNA チップの開発と実用化」(研究代表者)

平成 16～21 年度 JST 脳科学と教育事業「教育支援のためのバイオメンタル技術の開発」(研究代表者)

平成 19～21 年度 JST 育成研究事業「サイトカインを用いた精神的ストレスの評価技術」(研究代表者)

平成 19 年～21 年度 NEDO 大学発事業創出実用化研究開発事業「精神的ストレスの評価チップの実用化開発」(研究分担者)

連絡先:「ストレス」と「癒し」の研究会 第二解剖 仙波 (内線)5155

☆本講演会は、(財)和歌山県医学振興会から「平成 22 年度講演会等開催助成」を受けています。